



平成25年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年6月4日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 大
 コード番号 9636 URL <http://www.kin-ei.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 丸山 隆司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 小原 基生 (TEL) (06) 6632-4553
 四半期報告書提出予定日 平成24年6月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年1月期第1四半期の業績 (平成24年2月1日～平成24年4月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第1四半期	753	△11.9	6	△78.7	5	△83.4	0	—
24年1月期第1四半期	855	1.3	31	16.0	31	4.0	△169	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年1月期第1四半期	0	02	—	—
24年1月期第1四半期	△6	06	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第1四半期	5,506	30.0	1,649	30.0	—	—
24年1月期	5,604	29.9	1,677	29.9	—	—

(参考) 自己資本 25年1月期第1四半期 1,649百万円 24年1月期 1,677百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
24年1月期	—	0 00	—	1 00	1 00
25年1月期	—	—	—	—	—
25年1月期(予想)	—	0 00	—	1 00	1 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年1月期の業績予想 (平成24年2月1日～平成25年1月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	1,600	△8.7	△10	—	△20	—	△10	—	△0	36
通期	3,300	△2.0	60	△21.1	50	△22.0	10	—	0	36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年1月期1Q	28,210,000株	24年1月期	28,210,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

25年1月期1Q	294,633株	24年1月期	291,834株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年1月期1Q	27,917,233株	24年1月期1Q	27,921,273株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表作成の作製に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による深刻な状況から、緩やかに回復の動きが見られるものの、平静を取り戻しつつあった欧州債務問題の再燃や、本格的な需要時期を前に電力不足問題が懸念されるなど、依然先行き不透明な状況で推移しました。

当社の所在する阿倍野地区は、大阪市による再開発事業が最終局面を迎え、また、平成26年には「あべのハルカス」の開業が予定されるなど、周辺環境の変化は著しいものがあります。

このような状況の中、当社は当事業年度開始時において組織変更を行いました。内容は従来の不動産賃貸事業のうち、アポロビル、ルシアスビルをより一体的に運営・管理することを目的に、アポロ事業部、ルシアス事業部とテナントリーシング業務を行うビル企画部を統合して不動産事業部として再編するとともに、従来アポロ事業部が所管していた遊戯場等事業のうち、ゲームセンターの運営業務をよりシナジー効果の発揮を期待できるシネマ事業に移管し、シネマ・アミューズメント事業部とするものであります。報告セグメントにおきましても、従来は「シネマ事業」「不動産賃貸事業」「遊戯場事業」の3セグメントに区分しておりましたが、当第1四半期累計期間より「シネマ・アミューズメント事業」、「不動産事業」の2セグメントに集約しております。

なお、前第1四半期累計期間のセグメント情報につきましても、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものにより記載しております。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業におきましては“ドラえもん”“ライアー・ゲーム -再生-”“シャーロック・ホームズ シェドウ ゲーム”“名探偵コナン”“ALWAYS 三丁目の夕日 '64”などの話題作を上映し、これらは前回作を上回る興行成績を達成したものの、他の作品においてヒット作に乏しく、また、遊戯場事業におきましても、近隣に開業した競合施設の影響により減収となったため、収入合計は294,107千円(前年比15.7%減)となり、営業原価控除後では17,968千円の営業総損失(前年同期は7,302千円の営業総損失)となりました。

不動産事業におきましては、空室部分への新規テナント誘致に努めるとともに、導入準備を行ってきたデジタルサイネージを4月より稼働させましたが、特にルシアスビル事務所テナントにおいて競合が激化しており、このセグメント全体の収入合計は459,569千円(前年比9.3%減)となり、営業原価控除後の営業総利益は103,166千円(前期比10.7%減)となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高合計は753,677千円(前年比11.9%減)となり、費用の面におきましても全社において諸経費全般に亘って削減に努めましたが、営業利益は6,719千円(前期比78.7%減)、経常利益は5,159千円(前期比83.4%減)、四半期純利益は579千円(前年同期は169,134千円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末における総資産は、差入保証金の減少等により前期末に比較して98,466千円減少し、5,506,213千円となりました。負債は借入金の返済等により、前期末に比較して70,983千円減少し、3,856,244千円となりました。また、純資産は、配当金の支払い等により利益剰余金が減少したため、前期末に比較して27,482千円減少し1,649,968千円となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年1月期の通期業績予想につきましては、平成24年3月12日に「平成25年1月期決算短信(非連結)」にて公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年1月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	78,921	142,615
売掛金	101,321	124,237
商品	3,319	3,636
その他	178,852	278,112
貸倒引当金	△230	△370
流動資産合計	362,185	548,231
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,841,469	2,759,087
機械及び装置(純額)	90,518	87,397
工具、器具及び備品(純額)	41,358	54,306
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	4,097,095	4,024,539
無形固定資産	16,986	16,103
投資その他の資産		
差入保証金	1,094,340	884,340
その他	34,073	32,998
投資その他の資産合計	1,128,413	917,338
固定資産合計	5,242,494	4,957,981
資産合計	5,604,679	5,506,213
負債の部		
流動負債		
買掛金	75,537	64,748
1年内返済予定の長期借入金	200,920	350,920
未払法人税等	—	14,550
賞与引当金	10,800	22,200
その他	483,781	446,251
流動負債合計	771,039	898,669
固定負債		
長期借入金	993,340	817,880
退職給付引当金	60,199	61,248
受入保証金	1,661,675	1,647,097
資産除去債務	268,156	269,169
その他	172,818	162,179
固定負債合計	3,156,189	2,957,574
負債合計	3,927,228	3,856,244

(単位:千円)

	前事業年度 (平成24年1月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,191,429	1,164,091
自己株式	△101,817	△102,501
株主資本合計	1,677,968	1,649,945
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△516	22
評価・換算差額等合計	△516	22
純資産合計	1,677,451	1,649,968
負債純資産合計	5,604,679	5,506,213

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年2月1日 至平成23年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)
売上高	855,531	753,677
営業原価	747,367	668,479
営業総利益	108,164	85,197
一般管理費	76,676	78,478
営業利益	31,488	6,719
営業外収益		
受取利息	771	260
営業休止補償金	5,909	—
違約金収入	—	2,666
雑収入	291	1,009
営業外収益合計	6,971	3,936
営業外費用		
支払利息	6,119	5,494
雑支出	1,335	1
営業外費用合計	7,455	5,495
経常利益	31,004	5,159
特別損失		
固定資産除却損	441	2,432
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	136,012	—
特別損失合計	136,453	2,432
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△105,449	2,727
法人税、住民税及び事業税	20,200	13,800
法人税等調整額	43,485	△11,652
法人税等合計	63,685	2,147
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△169,134	579

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(平成23年2月1日から平成23年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	349,027	506,504	855,531	—	855,531
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	349,027	506,504	855,531	—	855,531
セグメント利益又は損失(△)	△7,302	115,467	108,164	△76,676	31,488

(注)1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(平成24年2月1日から平成24年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	294,107	459,569	753,677	—	753,677
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	294,107	459,569	753,677	—	753,677
セグメント利益又は損失(△)	△17,968	103,166	85,197	△78,478	6,719

(注)1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、当事業年度開始時において組織変更を行いました。内容は従来不動産賃貸事業のうち、アポロビル、ルシアスビルをより一体的に運営・管理することを目的にアポロ事業部、ルシアス事業部とテナントリーシング業務を行うビル企画部を統合し不動産事業部として再編するとともに、従来アポロ事業部が所管していた遊戯場等事業のうち、ゲームセンターの運営業務をよりシナジー効果の発揮を期待できるシネマ事業部に移管しシネマ・アミューズメント事業部とするものであります。報告セグメントにおきましても、従来は「シネマ事業」、「不動産賃貸事業」、「遊戯場事業」の3セグメントとしておりましたが、当第1四半期累計期間より「シネマ・アミューズメント事業」、「不動産事業」の2セグメントに集約しております。

なお、前第1四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき

作成したものにより記載しております。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

- (6) 重要な後発事象
該当事項はありません。